

「優しいのは…」

作 宮澤 理恵 / 絵 花松 あやか

ご利用者様の
送迎中のこと

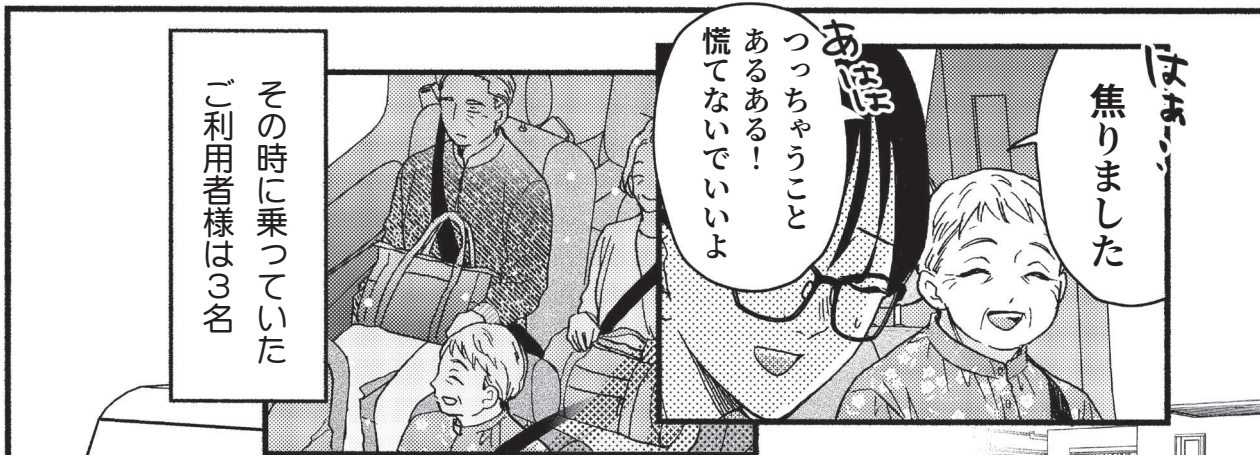
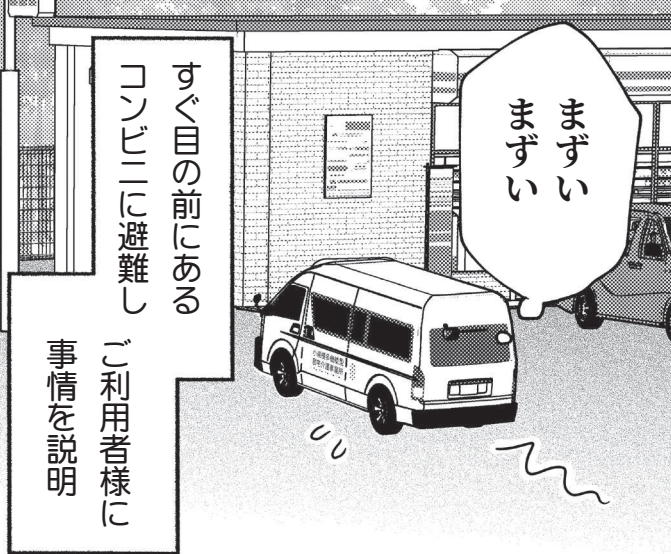
小規模多機能型
居宅介護事業所

次は山田さん
のお宅に向かい
ますねー

足が
~~~~~

突然、脛が  
つってしまっ  
たんです

あ……



ま… また…!!



しかも反対の  
足が

すみません  
ちよっとまた  
足つってしまって

車止めます!

えっ

帰り遅く  
なっちゃいますよね  
申し訳ありません

大丈夫だよ

やだなあ

一日に二回も  
脛<sup>すね</sup>つつちゃうなんて…

本当に  
すみません…

情けないやら  
申し訳ないやら

焦り謝る  
私に……

…ゆっくりで  
いいから

…ほら雲が  
黒いよ

何まして  
あげられなくて  
ごめんね

私の気を  
紛らわせようと

一生懸命話しかけて  
くださいました

…ああ  
ここは凄い坂道  
だね

運転大変  
だろう

いつもより遅い  
帰宅になって  
しまいました  
が怒るわけでもなく

…普段は  
寡<sup>か</sup>黙<sup>もく</sup>な方なのに  
…

気遣いに心も  
目頭もじんわりと  
温かくなりました

優しいのは  
あなた  
です…!!

優しい人が  
送ってくれて  
よかったよ

また来てね

事業所に戻り  
報告をするこ

それは大変  
だったね



## やまなし介護感動ストーリー大賞 準グランプリ作品②

### 「優しいのは…」

宮澤<sup>みやざわ</sup> 理恵<sup>りえ</sup>さん

ごく最近の話になります。

ご利用者様の送迎中に脛がつってしまったんです。すぐ目の前にあるコンビニに避難しご利用者様に事情を説明。しばらくすると落ち着いたのでゆっくり出発しました。助手席に乗っていた方が「慌てないでいいよ。」と優しく声を掛けてくださいました。

その時に乗っていたご利用者様は3名。無事に2人目の自宅にたどり着きました。「さあ、あと一軒。」と、ここでまた脛がつってしまったと思ったら反対の足！もう、情けないやら申し訳ないやら。何度も「申し訳ありません。」と謝る私に「大丈夫だよ。」「ゆっくりでいいから。何もしてあげられなくてごめんね。」と仰ってください、更には「雲が黒いよ。」「ここは凄い坂道だね。」と気を紛らわせようと一生懸命話しかけてくださいました。

その方普段は寡黙な方なのです。

いつもより遅い帰宅になってしまいましたが生るわけでもなく、「優しい人が送ってくれてよかったよ。」「また来てね。」「とまたまたありがたいお言葉！

いえいえ、優しいのはあなたです。

ご利用者様の気遣いに心も目頭もじんわり温かくなりました。

事業所に戻り報告すると「水分不足かも。」と貴重なOS-1をスツと差し出してくれた管理者にも実は感動したことは本人には内緒です。